

第6回稲沢市都市と緑のマスタープラン策定委員会

議 事 録

○開催日時：令和元年11月11日（月）10時00分～12時00分

○開催場所：稲沢市役所 政策審議室

○出席委員（敬称略）

竹内 伝史 岐阜大学 名誉教授
千頭 聡 日本福祉大学 国際福祉開発学部 教授
小島 洋一 稲沢商工会議所 顧問
日比野昭光 祖父江町商工会 副会長
松岡 重夫 平和町商工会 会長
森 茂樹 愛知西農業協同組合 代表理事専務
渡 邊 菱 稲沢市社会福祉協議会 会長
柿 沼 晉 稲沢市老人クラブ連合会 会長
窪 崎 香 稲沢市子ども会連絡協議会 会長
内藤ひろ子 稲沢市連合婦人会 会長
成瀬 友晃 名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 計画部 計画課 課長

（代理：丁左近英正）

林 幹郎 市民公募
佐藤 正光 市民公募
片山 貴視 愛知県都市整備局都市基盤部都市計画課 課長

（代理：山崎 宏）

小嶋 幸則 愛知県都市整備局都市基盤部公園緑地課 課長

（代理：作石祐介）

小野口勝久 愛知県一宮建設事務所 企画調整監

○欠席委員（敬称略）

嶋田 喜昭 大同大学 工学部 教授
平井 直人 愛知県立稲沢高等学校 教諭

（事務局）

市長 加藤錠司郎

建設部長 鈴森泰和

【都市計画課】

課長 松永 隆、統括主幹 伊藤健太郎、主幹 長崎倫典、主幹 菱川友隆、主査 新見 巧、

主事 山田大心

【都市整備課】

建設部次長兼都市整備課長 櫛田謙二、主幹 大野優樹、主査 山田和典

次第

- 1 あいさつ
- 2 協議事項
 - 議題1 稲沢市都市計画マスタープラン（案）について
 - 議題2 稲沢市緑のマスタープラン（案）について
- 3 正副委員長あいさつ
- 4 その他

議事内容

■加藤錠司郎市長あいさつ

- ・本日より最後の総仕上げ、ここまで無事到達できたのも委員の皆様のおかげである。
- ・本市は地理的優位性を有しながら、そのポテンシャルが十分に生かしきれていない。
- ・名鉄国府宮駅周辺の再整備やまちなか居住の推進、市街化調整区域におけるコミュニティ維持を進め、地域性を考慮したネットワーク構築の足掛かりとしたい。
- ・植木畑や銀杏畑、サリオパーク祖父江といった本市の特徴である緑については、重点的な整備、維持管理を進めることで稲沢市らしさを持った魅力あるまちに育てていきたい。

■議題1 稲沢市都市計画マスタープラン（案）について

「第5回策定委員会の意見への対応（都市マス）」「稲沢市都市計画マスタープラン（案）」に基づき、事務局説明

【質 疑】

（「⇒」は事務局の回答）

[委員]

- ・昨年は九州、広島県、今年は千葉県などで台風や豪雨により被災した。尾張地域では被害が少ないが、防災についてこれまでとは異なる想定や考え方で取り組んだほうが良いと思う。
⇒防災については、これまでの策定委員会での議論の内容を反映し、P46に方針を記載している。

[委員]

- ・P90に「計画の進捗管理」が掲載されているが、P85の「重点施策」で記載されている名鉄国府宮駅の高架化などの進捗把握はどのように考えているのか。
⇒鉄道の高架化事業については、短期的に成果が表れるものではないため、効果を測る直接的な指標は設けていない。住居系市街地の新規増分の面積として46haを目標設定しているが、名古屋鉄道沿線のまちづくりを進める中で鉄道高架の必要性を整理するとともに、実現化に向けて進めていきたいと考えている。また、鉄道高架とも関連の深い名鉄国府宮駅周辺再整備の検討については、市ホームページに進捗状況を掲載していきたいと考えている。

[委員]

- ・計画ができてでも実行されなければ意味がないので進捗管理が非常に重要だと思っている。現行の緑のマスタープランでは、アクションプランを策定することが記載されており、非常に積極的な

表現となっている。今回の都市計画マスタープラン、緑のマスタープランではこのようなキーワードはなく、若干後退したような表現となっているように思う。

- ・都市計画マスタープランでは中間年度において公表となっているが、緑のマスタープランでは中間年度及び最終年度にも公表となっているため合わせてはどうかと思う。
- ・緑のマスタープランではP D C Aサイクルについて触れているが、都市計画マスタープランでは触れていないため、記述してはどうか。
- ・都市計画マスタープラン、緑のマスタープランともに、指標の計測により評価を行いますとあるが、評価の結果を公表することも記述していただきたい。
⇒この度のマスタープランでは、最終年となる前回計画の評価を掲載しており、次の改定時も同様に最終年は評価することとなるので、中間年度に評価することのみを明文化している。都市計画マスタープランにおける評価にあたって、P D C Aサイクルをまわすことは、前提としているため、原案のままの記載内容としたい。評価結果を公表する表現については追記する。

[委員長]

- ・本日の意見を踏まえて追加、修正内容については事務局で調整することとし、副委員長と私で反映した内容を確認するが、本日の会議を以て、策定委員会で取りまとめた「稲沢市都市計画マスタープラン」として、委員の皆様より承認いただけるか。

(※承認を得る。)

■議題2 稲沢市緑のマスタープラン（案）について

「第5回策定委員会の意見への対応（緑マス）」「稲沢市緑のマスタープラン（案）」に基づいて事務局説明

【質 疑】

（「⇒」は事務局の回答）

[委員]

- ・P47 の評価指標が公園整備に関する指標のみとなっている。
⇒「身近な公園・緑地の親しみやすさ」の指標が、計画全体を捉えるものと考えている。前段の全体構想において指標は細かく定めているため、最終的にはそれらを含めて評価していきたい。

[委員長]

- ・人が集う公園が大切であるという意見を踏まえて、P31 にそのフレーズを加えているが、それに対する指標を設けるのは難しいと思う。

[委員]

- ・「身近な公園・緑地の親しみやすさ」の指標で集約されていると言えなくもない。本来、指標として設定したのならば、どうすればその指標値が改善されるのか、改善するための施策に繋げていくことが大事だと思う。現在は公園の管理が柔軟になってきており、大きな公園だけでなく、小さな公園でも民間が関わることができる。この10年間で意識をして、取組みを具体化して欲しい。

いと思う。

[委員長]

- ・緑のマスタープランは地域の特色や個性を出しやすいものだと感じる。策定委員会当初の素案と比べると、かなり稲沢市らしい緑のマスタープランができたと思う。

[委員]

- ・判断は事務局にお任せするが、上位関連計画についてまち・ひと・しごと創生総合戦略を上位計画とするのは妥当かどうかを検討していただきたい。

[委員長]

- ・都市計画マスタープランや緑のマスタープランの策定にあたり、まち・ひと・しごと創生総合戦略を含め、それらを包括している総合計画が市民の生活パターンの将来像だと念頭に置くべきだと思う。

⇒総合計画は平成 29 年度に策定し、平成 30 年度より運用しており、まち・ひと・しごと創生総合戦略は平成 27 年度に策定し、平成 27 年度より運用している。総合計画はまち・ひと・しごと創生総合戦略を全面的に継承しているので、まち・ひと・しごと創生総合戦略に関しては削除する方向で調整したい。

[委員長]

- ・都市計画マスタープラン同様、修正内容については、副委員長と私で確認するが、策定委員会で取りまとめた「稲沢市緑のマスタープラン」として、委員の皆様より承認いただけるか。

(※承認を得る。)

[委員長]

- ・本日が最後の策定委員会なので、委員の皆様より感想などをいただければと思う。

[委員]

- ・サリオパーク祖父江は大変賑わっている。国営公園にある芝も整備され、樹木を保全しながらきれいな公園になっている。また、日光川と名鉄山崎駅の間にある土地で、(仮称)イチョウ見本園の整備が現在進行中でありがたく思っている。まだ仮称であるが、名称の公募が始まり、いずれ正式名が発表されると思うが、見本園も作ってそのままではなく、年々、少しずつ手を加えて、緑のマスタープランで記述されているように人が集まる場所、集まり続ける場所にしてもらいたいと思う。

[委員]

- ・桜ネックレスの手入れのボランティアに参加したが、須ヶ谷川堤防の階段の踊り場になっているところに、葎のような草がたくさん生えており、景観として良くないと感じた。景観の保全についてはマスタープランにも記載があったが、ボランティアではできないような場所の管理を行政に行っていただきたい。都市計画マスタープランや緑のマスタープランが、絵に描いた餅にならないようお願いしたい。

[委員]

- ・緑のマスタープランは田畑について記載されており、農協として重要なポイントだと思う。特に耕作放棄地が、植木のまちである稲沢市にとって今後最大の問題となってくるのではないかと考えている。関連して、農地の保全については多様な形で農協が率先して取り組んでいかなくてはならない問題だと考えており、具体的な事を進めつつある。しっかりとした緑のマスタープランができたので具体的に進めていただきたい。

[委員]

- ・初回から最終回まで参加させていただいた。計画が絵に描いたもちにならないようにしてほしい。特に農地、自然の景観が市の重要な観光の要素だと常に思っている。耕作放棄地への対策などと絡めて特徴づくりを進めていただきたい。それから、歩道の整備という課題があったが、自転車や老人も増えたため、整備については早急に検討していただきたい。さらに、JR稲沢駅や名鉄国府宮駅の周辺再整備を取り上げていることは結構なことだが、強いて言えば、名鉄尾西線の4駅の利用について考え、宝の持ち腐れにならないよう活用の検討をお願いしたい。

[委員]

- ・マスタープランができあがって、うれしく思っている。市にとって一番の問題は人口減少であり、これについてどうするのかということが一番心配している。市長からも市街化調整区域の活用などの話を伺っている。都市環境については、財政事情もあり、目標達成が難しいかもしれないということは理解できる。土地利用については、何とかできないのかというのが感想であり、積極的な戦略や具体的な対策を立てられているが、攻めの姿勢で考えていただいて10年後にはこの人口減少が改善されていれば良いと思う。

[委員]

- ・私が住んでいる地域でもかなり高齢化が進んでおり空き家も増えているが、空き家が売りに出されたり、新しい家が建ったりするとすぐに売れる。以前はかなり人気があった地域であり、住みたい人も多いと思う。住みたいと思っても住む場所がないのが現状ではないか。空き家を住めるような状態にして、そこに新しい世帯が入れば、人口が増えるのではないかと思うので力を入れていただきたい。

[委員]

- ・委員を務めさせていただき、大変うれしく思っている。稲沢市に対し、日頃から市民として色々な思いがある。この計画については、いいなと感じられるものでないと市民は満足しない。策定委員会の場でも意見を言わせてもらったが、サリオパーク祖父江は本当に素晴らしいところで何度も利用している。子どもたちを楽しめる場所につれて行きたいが、身近にある公園は遊具や設備が古いため利用したくない。ぜひ、魅力ある新鮮な公園にするための意見をたくさん聞きながら、実現してほしい。古い遊具の色を塗り替えるだけでなく、公園も補修をするとともに、新しい遊具に更新してもらえると良い。

[委員]

- ・様々なことを網羅したマスタープランだと思うが、大事なものは、どのような形で実現していくのかだと思う。私は生まれも育ちも稲沢市で30年ほど前に市内に家を建てようと考えたが、適地がなく断念した。最近になっても同じような話をよく聞く。とてももったいない話であり、具体

的な施策に生かしていただきたいと思う。

[委員]

- ・小学1年生の時、長束の住宅団地へ自転車で向かう途中、ずっと続く松並木があり、それを見て感動した記憶がある。それが美濃街道であった。現在はなくなってしまったが、150年以上前の江戸時代からの遺産であり、当時子どもだった自分も感動させてくれたという思いもあり、今回公募委員を受ける際、150年後の子どもたちに何か一つでもすごいと思ってもらえるものがあればいいし、残せるようにしたいという気持ちがあった。結果、非常に良いマスタープランができあがり、これで何かが残せばいいと思った。
- ・スケジュールの進め方についてお願いだが、今回初めて委員を務めたこともあり、進め方がよくわからなかった。現行の都市計画マスタープランを見ると、基本構想から全体構想に続いており、今回の策定においても基本構想から示されると思っていたが、実際には全体構想の素案から示された。これでは全体の骨格に関わる意見が言えなかったため、骨格ができた段階で委員が意見を言える機会があればいいと思った。

[委員]

- ・山崎地区の（仮称）イチョウ見本園の整備に期待している。10年前の都市と緑のマスタープランの策定時にも委員として参加させていただいた。今回も参加させていただき、稲沢の全体的な都市計画や緑のことについて勉強させていただけたことに感謝している。また10年後も可能であれば参加したいと思っている。

[委員]

- ・住居系の市街地形成や市街化調整区域におけるコミュニティ維持について、先ほど住める適地がないというご意見もあったが、空き家や耕作放棄地の問題も併せて、新たな市街地整備を市とともに適切に進めていきたい。

[委員]

- ・サリオパーク祖父江は市、県、国により運営されている。三者の協議会でアクセス道路の改築などを進めているが、今後はソフト面や公園内の整備により利用促進に繋げていかなければならないと考えている。先ほどの意見にもあったが、単に造るだけではなく、意見を反映していくということも念頭に置きながら、今後も三者で検討を進めていきたいと考えている。

[委員]

- ・都市計画マスタープラン及び緑のマスタープランにおいて、委員長にご指導をいただき感謝している。人は病院で生まれ、病院で亡くなるのが現状だが、その間、どのように人が暮らすかということデザインするのが都市計画であると常々考えている。公園についても、どのように活用していくのかということについて意見を聞き、大変勉強になった。稲沢市とは1年に1度、都市計画に関して話し合いをする場を設けており、何をどのように進めるかを検討している。その中で、名鉄国府宮駅周辺の鉄道高架化についても具体的に考えている。鉄道高架化については非常に市民の関心が高いが、県の中でも順番があり稲沢市は後まわしになっているという現実があり、大変申し訳なく思っている。先に申し上げたように、人は病院で生まれ病院で亡くなるが、その間を繋ぐのが都市であり、特に交通であり、今後とも市と協力して、マスタープランに描かれた姿を実現していけるよう努力していきたい。

[委員]

- ・稲沢市内には名古屋鉄道の駅が合わせて9駅あるが、いずれにしても沿線の住民や地域の人々とともに歩いていくものだと思っている。各駅を活性化していくために、地域の人々や自治体と協力しながら進めていきたいと考えている。

■正副委員長あいさつ

[副委員長]

- ・足掛け2年間、興味深くいい議論ができたと思う。感想を申し上げるとすれば、冒頭に市長より話があったように、コンパクト、ネットワークについては色々な自治体に取り組もうとしているだろうが、悪戦苦闘をされていると思う。旧市街地はスポンジのように空いてきているが、新しく転入者を増やすためには、住居系の新市街地も必要である。そうした場合に、新しい市街地を造りつつ、旧市街地のにぎわいをどのように維持するのかは、稲沢市だけの課題ではないと思う。現実はまだ少し厳しいかもしれないが、全体として人口があまり増えないと予測されるため、まち・ひと・しごと創生総合戦略はやや希望的観測が含まれていると思う。
- ・稲沢市の都市の生い立ちには大きな特徴があり、いいところもあれば当然課題もある。そういう意味では、都市計画マスタープランは市の基盤づくりとなる計画であるため、例えば、市民や事業者が担うべきことに対して担い手の発掘・育成という記載があるが、それをどう実現するかは都市計画や都市整備だけではできず、市民協働の面からも考えないとできないと思う。市役所を見ると都市基盤を担う担当部署と、住民と直接向き合いコミュニティを活性化する部署とあるが、これまで以上にソフト的な部署との連携が大事だと思う。
- ・先ほどの発言にもあった美濃路の松林について、一宮市や小牧市でも緑のマスタープランの見直しを行うが、一宮市では美濃路を緑の軸として位置づけられることになると思う。広域的な視点を持って近隣市町と考えを共有して協力するなど、都市計画マスタープランも緑のマスタープランも、この10年間の先を見通しながらかつ、市民と向き合いながらマスタープランを着実に実現することを期待したい。

[委員長]

- ・稲沢市にも国府宮にも来たことがなかったが、約2年間ですいぶんと勉強させてもらい、しみじみとまちづくりが難しいまちだと思っている。稲沢市の難しい課題に対して、マスタープランで方針を十分に表現できているかと言うと、表現できていないと思う。やはり、マスタープランは将来像を決めるものではあるが、行政や市民がある程度将来像の方向性について合意を得ていないとマスタープランは作れない。しかし、マスタープランがないと市民の合意も得られない。したがって、マスタープランと市民の合意との間のキャッチボールになってしまうため、5年あるいは10年で改定する。市長のあいさつを聞いてから、キャッチボールを進めていくより仕方がないのだろうと自ら納得した。したがって、両マスタープランについて、私自身完全に満足しているわけではない。しかしこれは、やむを得ないことであり、特に今は少子高齢化の進展が、いよいよ避けられないこととして認識されているが、それを乗り切るための方向性が十分議論されていない。高齢化については、マスタープランの観点から見ると、稲沢市は高度成長期以来、名古屋で都市的生活を楽しみ、稲沢へ帰ってきて落ち着いて生活をするベッドタウンであったが、これからは違う。稲沢のまちの中で生活を終わらせる人が多くなる、退職世代が多くなる、通学

世代の子どもたちは比率として減る。稲沢のまちのなかで毎日が終わり、名古屋に行く頻度は少なくなるような生活の中で、稲沢のまちに満足できるよう変わっていかねばいけない。それが市民の暮らしのパターンが変わるということである。では、具体的にどう変わるのかを市民と合意形成を図っておかねばならない。稲沢市の場合、一番大事なのは、市街化区域である都心部に市民を集めることではなく、市街化調整区域で歩いて暮らせる生活圏の中で1日が終わるような地域づくりを進めていくことだと思う。そのためには、市街化調整区域の中でどこを小さなコアにし、最低限の毎日の生活が歩いて送れるというような地域を創っていくのか。ところがこの2年間では、それを具体的に打ち出すまでは議論が至らなかったということである。方向性については打ち出したつもりである。しかし今度はそれを咀嚼し、議論し、次回のマスタープラン改定時には、より具体的な議論ができるようになればいいと思う。今回は自らが満足いくマスタープランをまとめることができなかったが、徐々に良くなっていくものだと思う。

■その他

- ・本日承認いただいた最終案を基に11月29日に開催される稲沢市都市計画審議会に諮問し、答申いただく予定である。その後は印刷作業に入り、都市計画マスタープラン及び緑のマスタープランともに2月中の公表を予定している。完成した冊子は委員の皆様へ配布する。

以上